『シンテッポウュリ"西尾EX"の9、12月出荷作型の安定生産技術』

=福岡県=

【全体概要】

シンテッポウユリは、4品種で6~9月出荷作型を栽培しているが、9月出荷は天候の影響を受け、出荷量が安定しない。また、供 給量が減少している需要期の年末出荷も求められている。そこで、新品種を導入、夏季高温によるロゼット回避のための育苗技術 を検討し、9、12月出荷安定栽培技の確立し、出荷期の拡大と生産量の拡大を図る。

新品種・新技術等の概要

〇新品種「西尾EX(エクセレント)」

県内の民間育種家である西尾氏が育成した 品種群を「博多シンテッポウユリ」として生産・ 系統販売している。既存の8月出荷用品種に 比べ生育・開花が早く、揃いが良く、抽だいに 必要な低温遭遇量がやや少ない。

〇9、12月出荷の安定生産技術の 確立

県内5か所で実証ほを設置し、 苗低温処理及び定植時期について 実証。

主な取組内容

【事業検討会・設計検討会】(6月)

【プロジェクト会議】(6~1月、2回)

【実証ほの設置】

9月出荷作型:3カ所、12月出荷作型:2か所

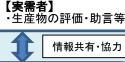
【現地検討会】(7~12月)

実証ほの現地検討会を実施

【先進地·市場調査】

先進地の愛媛県・兵庫県及び関西市場を調査。

実施体制図



【JA全農ふくれん】

- 実種苗の提供 『者とのマッチング
- 各検討会への参画 •販売戦略策定 情報共有:調整

【品種育成者】

品種、種苗提供

現地適応性評価支援

【農林業総合試験場】

- ·検討会への参画 ・技術課題への対応
- ・現地実証にかかる助言

【農業革新支援専門員】

事業実施計画の作成、 検討会の開催

関係組織との調整

情報共有•協力

【JAおよび生産者】 ・生産技術研修会の開催 各検討会への参画

【県園芸振興課】 振興方針への反映

連携

【普及指導センター】 実証ほの運営管理 実証ほの調査

連携

【実証ほ協力農家】

実証は栽培管理 管理記帳

課題と今後の対応

【1年目の取組み】

・農林業総合試験場で「西尾EX」の抽だい、開花等の品種特性 を調査するとともに、産地において6~9月定植の開花実証試 験に取り組んだ。6月中下旬定植で9月出荷が可能であり、9 月定植では12月出荷に間に合わないことが実証された。

・定植後のかん水量が抽だい率に影響することがわかった。

【今後の対応】

- ・苗低温処理による9月出荷作型の実証ほ及び定植時期によ る12月出荷作型の実証ほを設置。
- 「西尾EX」の9、12月出荷作型栽培手引きを作成。